

# 景観資源発掘のすすめ

山口県都市計画課

=====

地域景観ワークショップ（以下、「WS」という）を例に、実際に地域における景観を発掘する手法を紹介します。

=====

## 目次

発掘前の心構え	.....	P.2
予備知識	.....	P.2
発掘隊の編成	.....	P.2
発掘隊の装備	.....	P.3
発掘現場	.....	P.3
発掘した景観の活用	.....	P.4
まとめ	.....	P.4

=====

## 発掘前の心構え

景観の発掘には、まず、心構えが大事です。

WS では、景観発掘調査を始める前に、まず“景観とは何か”について専門家の講師によるセミナーで学びました。

「景観が物的環境と景観の見方によって成り立つこと」をしっかりと認識しましょう。  
山口県景観ビジョンを事前に読んでおくとバッチリです！

## 予備知識

次に必要なこととして、地域固有の特性を調べておく必要があります。

景観は文化であるというように、地域の歴史や文化を知ることが、発掘に重要な手がかりを与えてくれます。

ワークショップでは、地元の方から地元プチ情報の講演をいただき歴史や文化を学びました。

図書館やインターネットで郷土史などを事前に調べておくといいでしょう。観光パンフレットや昔話の中にもヒントがたくさん隠れています。予備知識が多いほど発掘の成果が得られやすくなります。

## 発掘隊の編成

発掘は、一人でも可能ですが、複数で探すとより効果的です。発掘隊を編成しましょう。特に、立場の違う人が混成した方が、より多角的に景観を発掘することができます。

WS では、次の構成で行いました。

地元在住の人

建築士

学生

地元以外（市外に在住）の人

地元にいる人は、地元でしか分からない情報を有しており、建築士は、景観の重要構成要素である建築に関する専門的知識を有している。また、学生は、尽きることの無い好奇心と純粋な視点を持ち、地元以外の人には地元では当たり前と感じてしまっている良好な景観に気づく視点を有しています。

このように様々な視点で発掘できる体制がベストですが、人が集まらない場合には、調査隊のメンバーがそれぞれ観光客やお年寄りなど他人になったつもりで調査してみるのも良いでしょう。また、地元の方がメンバーにいない場合には、地元ならではの情報が不足しがちなので、なるべく多くの地元の人と接して情報を収集する必要があります。

## 発掘隊の装備

さて、調査のための道具を確認しましょう。

特に決まりはありませんが、WS で使用したアイテムが有効だったので是非参考にしてみたいと思います。

WS では次のツールを準備しました。

- 額縁 … A1 のダンボールで作成
- 地図 … 書き込み可能な住宅地図(A3)
- 付箋 … 皆の意見を書き留めるメモ帳
- カメラ … インスタントカメラ

額縁は、景観を切り取ってみるのにとっても有効です。風景写真を撮るときに、ファインダー越しに見ると良い景色が見つかることが出来るように、漠然と探しても見つからない景観が、この額縁を使うと不思議と沢山発見できます。

特にサイズは決まったものではありませんが、複数のメンバーで探すときは、比較的大きな額縁を作ったほうが皆で探しやすいと思います。

地図は、発掘する範囲の地図で、発掘箇所とコメントが書ける白地図が良いかと思えます。(住宅地図がベストです！)

付箋にメモをするのは、後で結果をまとめるときに有効です。また、地図に書ききれない情報も多いので、地図と付箋に同じ印をして、メモを残しておくのも良いでしょう。



最後はカメラです。インスタントカメラに限りませんが、後で、皆で整理しやすいようにカメラを選択すると良いでしょう。手早く WS 形式でまとめる場合は、インスタントカメラは現像や出力の手間も要らないので有効です。整理する時間に余裕があり、きれいに保存する場合は、デジカメの方が良いでしょう。

このような道具を使い、調査隊のメンバーで役割分担を決めて上手に探索しましょう。



## 発掘現場

さて、いよいよ出発です。

発掘現場では、まず、景観とは何かを思い出してください。目で見えるものだけでなく、五感で感じてください。潮の香りや人の温かさなど、その場でなければ味わえない景観が見つかるはずです。

予備知識も活用してください。漠然と見るのではなく、その土地の歴史や文化を思い感じながら触れて見ると景観が浮き出てくるはずです。また、同じ対象物でも離れてみるとき、

近づいてみるとき，じっとしてみるとき，移動しながらみるときでは，印象が異なり、隠れた景観が発掘されます。

更に、「季節が変わったらどんな景観だろう。」とか、「霧がかかると美しいだろうな。」など想像の翼を羽ばたかせて下さい。またまた新たな景観が発掘されることでしょう。

### 発掘した景観の活用

景観を沢山発掘したあとは、ただ見つけたというだけで終わらせるともったいないので、何かしら活用できるように工夫しましょう。

景観は、それぞれの心の中にあるうちは、共通認識も得られずに、保全や形成につながりません。景観を発掘し始めた動機はそれぞれで異なるでしょうが、発掘された景観資源は皆の財産です。

壁新聞にするのもいいし、ホームページなどで紹介するのもいいでしょう。とにかくなるべく多くの人の目に触れ共有するように工夫しましょう。



### まとめ

景観の発掘方法について紹介してきましたが、そもそも何故発掘しなければならないかについてお考え下さい。

景観法には、事業者の責務として基本理念にのっとり良好な景観の形成に努めなければならないとされています。

建築士の方は、建物を建築するとき、建築士として施主の要望に応えるために良いデザインを追及することは当然のことと思いますが、これからは、景観にも配慮した建築行為を心がけていかなければなりません。

景観法の基本理念にある「地域の個性及び特色の伸長に資するよう」に良好な景観形成を図るためにも、この景観発掘行為は重要な意味を持つものです。

是非、取り組んでみてください。